

Injury Alert (傷害速報)類似事例

ロフトベッドからの転落による重症頭部外傷 (No.69 ロフトあるいは階段からの転落による重症頭部外傷の類似事例 1)㊦

事例	基本情報	年齢：6 歳 1 か月 性別：男児 体重：19.3kg 身長：113.5cm
	家族構成	両親、兄（8 歳）、本児
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		右頭頂骨・側頭骨骨折、急性硬膜外血腫、気脳症
医 療 費		入院 568,350 円 外来 13,670 円
原因対象	対象名称	ロフトベッド
	入手経路 使用状況	入手経路：受傷 1 か月前に、母がインターネット通販サイトで新品の製品を購入した。 設置方法（図 1、2）：マンション内の自宅の子ども部屋に、1 か月前に購入した高さ 180cm のロフトベッド 2 台を長辺が接するように並べて設置し、奥側で兄が、手前側で本児が就寝していた。ベッドの足側の短辺は壁に接して設置し、頭側の短辺は壁との間に 30cm の隙間があった。手前側のベッドの長辺側には、昇り降りするためのスペースがあり、ベッド直下の床にカーペットを敷いていたが、ベッドより手前部分の床にはクッション性のあるフローリングが露出していた。ロフトベッドの両側長辺と両側短辺には柵があったが、長辺の両端にははしごを取り付けるための約 50cm の柵のないスペースがあり、事故当時は足側のスペースにはしごを取り付けていた。柵の高さは 24.5cm、マットレス(別売り)の厚さは 10cm であった。ロフトベッドの就寝部と天井の距離は 82.5cm だった(図 3)。本児は元来寝相が悪く、1 か月前までは 2 段ベッドの下段で就寝していた。1 か月前からロフトベッドで就寝するようになったが、事故当日まではベッドから転落したことはなかった。
発生状況	発生場所	マンション内の自宅の子ども部屋
	周囲の人 周囲の環境	隣のベッドで兄が就寝、母は廊下を挟んだリビングに在室
	発生年月日	2025 年 1 月 X 日（金） 午後 11 時 15 分

	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	事故当時、母と本児、兄の3人で在宅しており、父は外出中で不在だった。X 日午後 9 時頃に兄が自分のロフトベッドで就寝した。午後 11 時 15 分頃、兄がロフトベッドからフローリング部分の床に転落した。目撃はなかったが、物音に気付いた母が部屋に見に行ったところ、本児が床に座り頭を抱えて「痛い」と言いながら啼泣していた。X+1 日午前 0 時 20 分に救急外来を受診し、歩行可能で麻痺や外傷所見がないため帰宅した。X+2 日朝から右耳の聞こえにくさを訴えていたが、活気は良好であった。同日午後 5 時頃に両手の脱力を認め、その後右側頭部の腫脹に気づいた。X+3 日、耳の聞こえにくさは改善し、活気は良好であったが、念のために再度救急外来を受診した。
	医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	X+3 日救急外来受診時、バイタルサインは HR 89 bpm、RR 20 /min、SpO₂ 98%(室内気)、BT 36.3 °C、GCS E4V5M6、意識レベル清明であった。右後頭部に 5cm 大の軟らかい皮下血腫と同部位の圧痛、鼓室内血種を認めた。両上肢の MMT は 4/6 と低下していた。頭部・頸椎単純 CT 検査で右側頭骨骨折、頭頂骨骨折、気脳症、急性硬膜外血腫を認めた(図 4)。頸椎の骨折やアライメントの異常はなかった。神経所見とバイタルサインの観察目的に PICU に入室した。X+4 日朝には両上肢の脱力は改善し、一般病棟に転棟した。経過観察を行い、皮下血腫は徐々に消退し、痛みも改善傾向となり、活気や食事摂取量も改善した。退院前に事故予防指導、子ども家庭支援センターによる家庭訪問を実施した。X+8 日に自宅退院した。退院後は屋外での遊びは高所に上ることは避け、外来で運動制限を解除していく方針で経過観察を続けた。X+180 日時点で独歩、年齢相応の社会生活が可能であり、麻痺などの後遺症も認めていない。
	キーワード	転落、頭蓋骨骨折、気脳症、頭蓋内出血、ロフトベッド

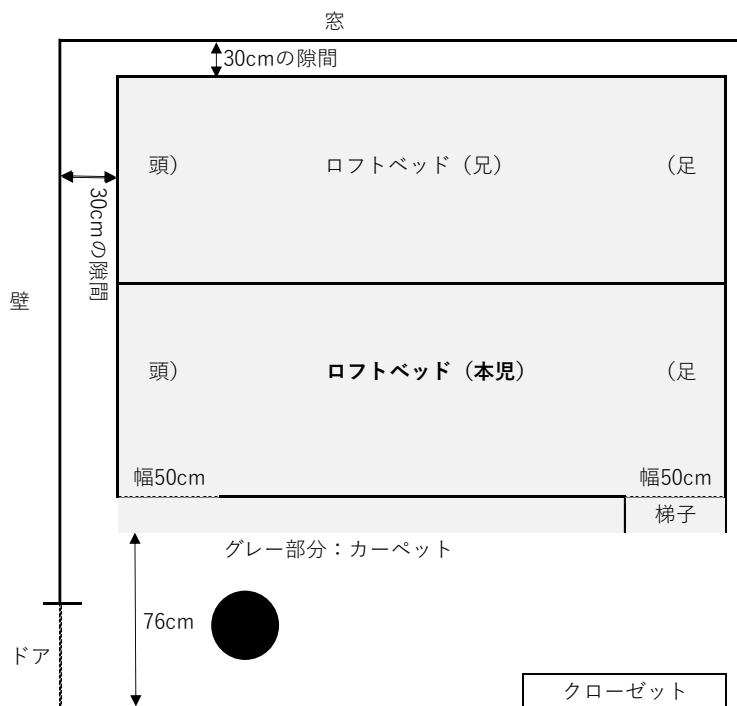


図 1：子ども部屋の間取り図

●の位置で本児が泣いているのを母が発見した。



図 2：部屋の写真（事故後に設置位置を微調整している）（患者の代諾者の許可を得て掲載）

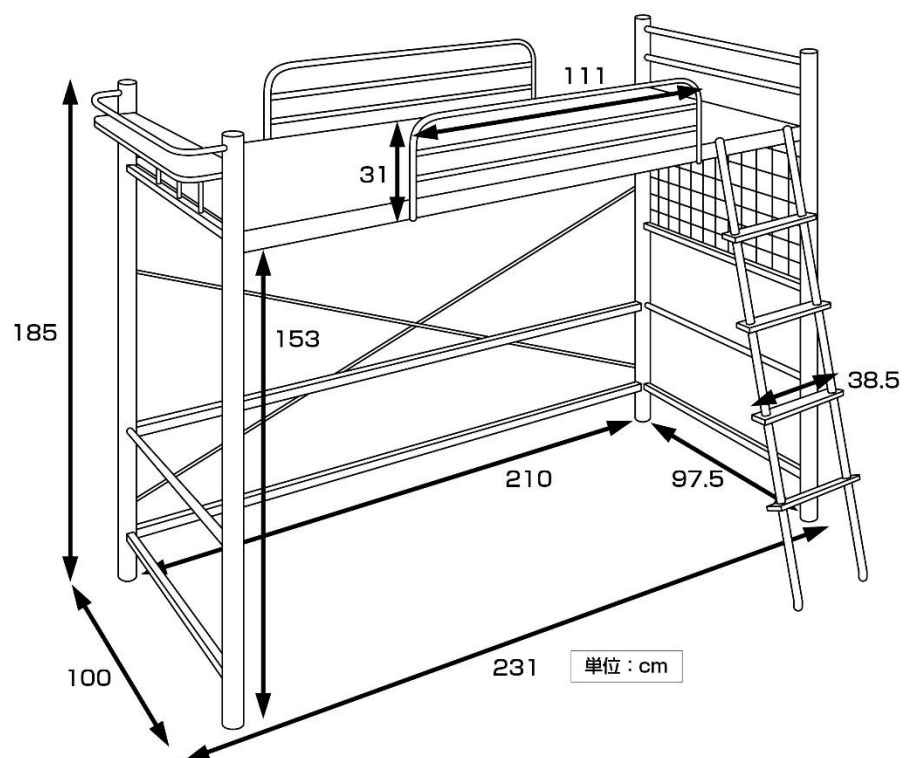


図3：ロフトベッドの寸法（参考値）

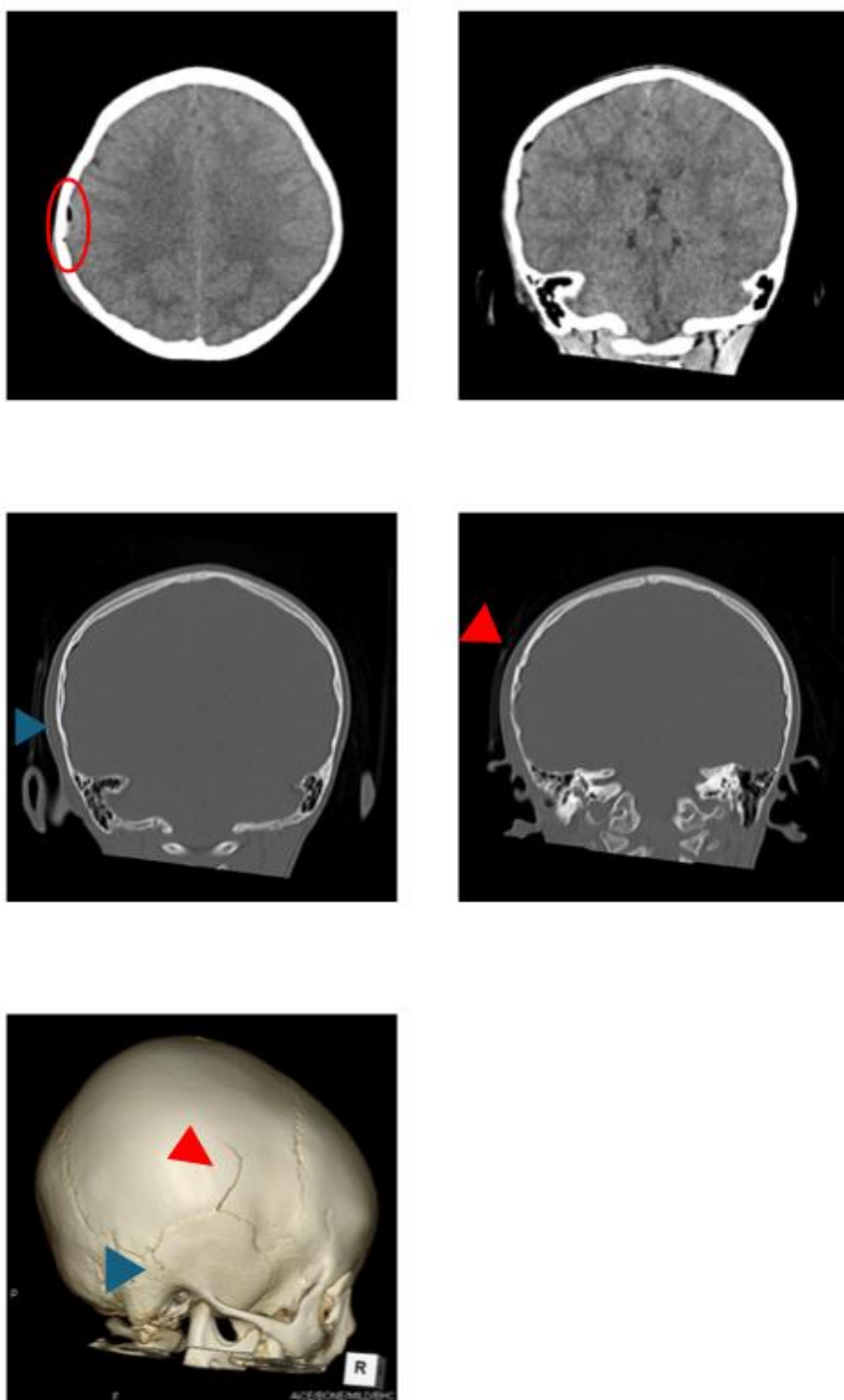


図 4 : 頭部単純 CT (2025 年 1 月 20 日)

右側頭骨骨折 (▶)、頭頂骨骨折 (▶)、気脳症および急性硬膜外血腫 (○) を認めた。